

医療法人芙蓉会 南草津病院

訪問リハビリテーション情報誌

みなりハ

第25号

発行月 2018. 4月

今年の冬は特別寒く、ようやく暖かい日が続くようになりました。昨年4月に立ち上げました地域リハビリテーション課も皆さまのご理解・ご協力を得ながら1周年を迎えることが出来ました。

昨年度の取り組みにはなりますが、南草津病院にて草津市周辺地域のケアマネジャー様を対象とした、地域リハビリテーション課との合同勉強会を開催させて頂きました。合同勉強会では地域リハビリテーション課（訪問・通所リハビリ）の特徴や、こういった方がどのような経過を経てリハビリを行ったかなど、実際の事例を通じてケアマネジャー様にご説明させて頂きました。合同勉強会を通して顔の見える関係作りが出来ていき、意見を交わすことで互いの職種の相互理解を深めることが出来ると思います。

このように、今年度も合同勉強会を開催し、周辺地域のケアマネジャー様との意見・情報交換など行いながら、どうすれば私達が利用者様やご家族にとって、より良い関りが持てるか考える場にしていきたいと考えております。



【第1回合同勉強会の様子】



【第2回合同勉強会の様子】

【ご挨拶】

この度、4月末をもって退職させて頂くことになりました深田大介と申します。これまで訪問リハビリをさせて頂き、利用者様の頑張っておられる姿に、いつも元気ももらっていました。また、家族様には色々な状況で介護をされている日々には頭が下がる思いでした。関係機関の方々には、介護保険でわからないことを沢山教えて頂きました。これまでの経験は、これからの人生においてかけがえのないものになりました。皆様のご厚意に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

み な り ハ 通 信

今回は、脳卒中を患った M さんの訪問リハビリをご紹介します。お仕事と家事との両立で、忙しい日々を送られていた M さん。ある日を境に、突然入院生活が始まりました。救急搬送後は、急性期病院 → 当院回復期リハビリ を経て自宅復帰。その後半年間、通所リハビリを利用され、卒業時には自宅内でゆっくりなら主婦の役割を果たせるくらいには回復されました。しかし、元々仕事の合間に絵本サークルや短歌を詠む会に参加するほど活発な M さんには、やりたいことがまだまだあります。そこで、3 ヶ月限定で家事スピードアップや外出機会を増やす目的で訪問リハビリを利用することになりました。

週 2 回の訪問リハビリでは、作業療法士 (OT) が家事動作での手の動かし方を助言し、もう 1 日は理学療法士 (PT) が外出練習やホームエクササイズを一緒に考えました。

「かかりつけ医院や買い物に歩いて行きたい！」



家の外へ出ると、ただ歩けるだけではいけません。①車が来ないか左右を確認したり、②人込みを避けながらペースを加減したり、③限られた空間を上手に歩く必要があります。訪問リハビリ開始して 2 ヶ月経過時には、かかりつけ医院にお薬を貰いに行ったり、ATM に行ったり、通所リハビリで仲良くなった友達とランチを楽しめるようになりました。そして・・・

「電車に乗って以前通っていた短歌の会に行きたい！！」



通常 1 時間のところ 2 時間に延長して自宅から当院まで電車で往復することに挑戦しました。④あえて小銭で切符を買い、⑤階段を使い、⑥歩くルートをご自身に判断してもらって無事到着できました！

「これで自信がついたわ」と訪問リハビリ卒業後も、マシン運動ができるデイサービスで体力づくりを継続され、ご主人と一緒に出掛けることも増え生活にメリハリもついたそうです。**やりたいことをあきらめない、好奇心を持ち続けることの大切さを再認識させて頂きました。**

このように、病気やケガをきっかけに「●●したい！」という意欲はあるのに「どうすれば再チャレンジできるか分からない」という方は少なくありません。そんな時は、気軽に私たち地域リハビリテーション課にお声掛けください。